

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和6年度 第2回高松市文化芸術振興審議会
開催日時	令和7年2月18日(火) 19時00分～20時45分
開催場所	高松市役所 11階 114会議室
議 題	(1) 高松市文化芸術振興計画に掲げる事業の取組状況について (2) ユネスコ創造都市ネットワーク(UCCN)への加盟申請について(報告) (3) その他、今後のスケジュールなどについて
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
出席委員	青山委員、鹿庭委員、北岡委員、島田委員(副会長)、多田委員、田中委員、橋本委員(会長)、三木委員、水嶋委員、若井委員 計10人 (欠席5人 甘利委員、金川委員、鎌田委員、木ノ下委員、林委員)
傍 聴 者	0人
担当課及び連絡先	高松市文化芸術振興課 087-839-2636

審議経過及び審議結果
<p>会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。 審議会の公開・非公開について審議がなされ、公開の決議がなされた。</p> <p>(1) 高松市文化芸術振興計画に掲げる事業の取組状況について 令和6年4月に策定された「第3期高松市文化芸術振興計画」に掲げる事業の取組状況について事務局から説明し、次のとおり意見があった。</p> <p>【高松版文化芸術プラットフォーム事業について】 (委員) ・今後のプレイヤーズ・プラットフォームでは、内定したプログラムディレクターが、本事業の方向性や議論の構築をリードしてってくれるのか。 (事務局) ・今後のプレイヤーズ・プラットフォームは基本的に、プログラムディレクターを中心に議論を進めていく予定である。 (委員) ・資料①「第3期高松市文化芸術振興計画の具体的取組」の左から5つ目の欄「前計画との関係」では、「新規」や「継続」という記載が多い中で、本事業のみ「拡充」と記載されているのはなぜか。 (事務局) ・これまでも文化芸術プラットフォーム事業を継続してきたが、令和7年度から新たに、文化芸術活動の伴走支援をする専門組織「アーツカウンシル事務局」を立ち上げることから、「拡充」と記載している。 (委員)</p>

・「拡充」と記載しているにも関わらず、令和6年度の決算見込額が予算額の半額以下になっているのはなぜか。

(事務局)

・オンライン等の手段を活用することで旅費の支出がなかったため、決算見込が減額となっている。

(委員)

・内定したプログラムディレクターの詳細をお聞きしたい。

(事務局)

・3月19日に開催されるプレイヤーズ・プラットフォームの御講演者として、近日中に高松市公式ホームページでの掲載を予定している。御経歴や分野等も含めて掲載予定である。

(委員)

・内定したプログラムディレクターは県内の方か、県外の方か。

(事務局)

・現在は県外におり、これまでアーツカウンシルの設立及びアーツカウンシルネットワークの構築に取り組んできた方である。

(委員)

・県外から来られるということで、皆様の意見を聞いたり、高松の調査をしたりする準備期間を1年くらいとらないと、計画が立てられないと思う。次回のプレイヤーズ・プラットフォームで、初めから計画を御提案いただくわけではないという認識でよいか。

(事務局)

・そのような認識で間違いない。内定した方は、実際に高松に来て皆様のお話を聞いた上で、具体的な事業や新しい情報発信ツールを検討していきたいという考えを持っている。

(会長)

・プログラムディレクターだけで進めることはできないので、皆様にも色々な御意見を出していただき、今よりも面白いものができればよいと思う。

【アーツカウンシルによる中間支援事業について】

(委員)

・新しくアーツカウンシル事務局を立ち上げる理由を、今一度確認しておきたい。

(事務局)

・色々な観点があるが、過去にプレイヤーズ・プラットフォームで行ったアンケートで、文化芸術活動をしている方が固定化・高齢化している、若い世代の方が入ってこられないという課題が浮き彫りになったが、そのような課題に対応するための側面もある。

・文化芸術活動をされている方の伴走支援ができる組織にしていきたい。

(会長)

・アーツカウンシル事業は、文化芸術活動をしている方々の情報交換がスムーズにできる場を作りたい、文化芸術に関心のある方々が集まる場が欲しい、という思いから始まったものだと認識している。

【文化芸術ホール自主事業について】

(委員)

・文化芸術ホールに新たに購入した2台のピアノは買い替えなのか、もしくは追加なのか。

(事務局)

・今あるピアノが非常に古いため、買い替えである。

(委員)

・ピアノのメーカーを教えてほしい。

(事務局)

・スタインウェイ&サンズのピアノを買い替え、ヤマハのピアノをカワイのピアノに買い替える。

【文化芸術ホール自主事業（ホールボランティア募集）について】

（委員）

・本事業の予算・決算額が昨年度までは0円だったが、今年度の予算額が急増しているのはなぜか。

（事務局）

・令和4年度及び5年度は改修工事のため文化芸術ホールを休館しており、事業を実施していないため、昨年度の予算額が0円となっている。改修が終わり、今年度よりリニューアルオープンをしたため、新たに予算を確保している。

【文化部活動の地域移行について】

（委員）

・部活動の地域移行化は重点課題であるため、教育委員会等と連携しながら上手く活用し、教員の働き方改革につなげてほしい。

・今年度の決算見込額が半額以下になっているのはなぜか。

（事務局）

・文化部活動の地域移行は、先生方の負担軽減という意味でも、真剣に向き合っていかなければならない課題だと認識している。

・今年度は香東中学校の吹奏楽部で実証実験を行うため、民間委託業者を募集したが、受けてくれる業者とマッチングできず、結果として地域指導者のみで実施した。委託料の支出がなかったため、決算見込額が減額となっている。

（委員）

・実証実験について、今年度はマッチングできなかったとのことだが、今後の方針はあるのか。

（事務局）

・今後の方針については、スポーツの分野も含め、高松市全体で議論していきたい。

（委員）

・単に部活動の指導時間を短くすればよいという問題だけではないため、教育委員会やその他関係機関と連携しながら議論を進めてほしい。

【新規掲載事業について】

（委員）

・「玉藻公園ライトアップ事業」というのは、玉藻公園のライトアップ自体を指しているのか、もしくはライトアップをしている時にやっているイベントのことを指しているのか。

（事務局）

・令和7年度は玉藻公園70周年にあたり、70周年記念事業としてライトアップや音楽イベント等を実施予定であるため、このような表記となっている。

（委員）

・「民放テレビ広報番組」について、市有施設に焦点を当てた番組を制作することだが、どのような計画で進めていくのか。

（事務局）

・具体的にどの施設に焦点を当てるかは検討段階であるが、玉藻公園等をはじめとする施設や場所に焦点を当て、YouTube等の新しい広報媒体の活用も検討しながら発信をしていく予定である。

【資料①「第3期高松市文化芸術振興計画の具体的取組」について】

（委員）

・市民の視点から見て分かりやすい資料を作成してほしい。

(事務局)

- ・委員の皆様にご審議いただく資料のあり方については、今後検討していきたい。
- ・高松市のホームページや新たに構築するアーツカウンシルのホームページについても、分かりやすいものとなるよう、今後検討していきたい。

(会長)

- ・資料①については、本審議会における委員への説明資料であり、一般向けの資料ではないと認識している。市民の皆様へ、高松市の文化芸術の方向性をお伝えしていくためには、また違う形を検討していかなければならない。

(2) ユネスコ創造都市ネットワーク (UCCN) への加盟申請について

ユネスコ創造都市ネットワーク (UCCN) への音楽分野での加盟申請について事務局から報告し、次のとおり意見があった。

(会長)

- ・最終的に加盟の可否が分かるのは5月なのか。

(事務局)

- ・5月中旬から末にかけてと伺っている。

(委員)

- ・加盟決定後は、本審議会も絡んでいくのか。

(事務局)

- ・議論の枠組みについては、今後検討していくが、文化芸術振興計画あるいは文化芸術振興審議会の議論とも絡んでくる内容になるため、うまく連携ができるよう検討していきたい。

(委員)

- ・加盟後4年間の活動計画の中に、まちなかで音楽を奏でられる場所を拡大していくとあるが、これに対して騒音等のネガティブな意見も出てくると思うので、「こういう街にしていくために」というテーマやメッセージを、音楽をしていない方にも上手く伝えていくことが大事だと思う。

(会長)

- ・アート表現には色々な領域があるが、街に音楽が溢れているというイメージが広がることは大切だと思う。

(委員)

- ・若い世代につないでいくというのがテーマだと思う。街中で音楽をするときのマネジメントの視点を、若い世代の方に共有していかなければならない。

(委員)

- ・加盟申請にあたり、市民への浸透度というのは評価基準になるのか。例えば、申請の段階で市民の皆様にご広報をし、機運を高めて申請に向かうのか、あるいは加盟後に広報をするのか。

(事務局)

- ・申請書には、過去4年間に市民の方が主体となった取組に関する項目がある。
- ・どれだけ機運が醸成されているのかを反映させる審査項目はないが、非常に大事なことだと思っている。
- ・加盟することで、市民の皆様により一層高松のまちづくりの方向性を御理解いただき、多くの方に御参加いただくことが、本ネットワークに加盟することの目的の1つだと思う。

(委員)

・申請にあたり、高松市の独自性の部分で庵治石や漆器が挙げられているが、香川県漆芸研究所という素晴らしい機関もあるので、香川県とも連携し、活用して行ってほしい。

(3) その他、今後のスケジュールなどについて

次回の高松市文化芸術振興審議会の開催日程について事務局から説明を行った。

以 上